

## Section 3 ETHICS AND PROFESSIONAL PRACTICE GUIDELINES

### 3. 倫理観と専門家実践のガイドライン

#### 3.1 Ethical conduct and standards for training and supervision :

トレーニング及び、スーパービジョンの倫理的行動（振る舞い）と基準

##### 3.1.1 Preamble : 前文（序文）

##### 3.1.2 Ethical principles : 倫理原則

##### 3.1.3 New values and global challenges : 新しい価値観とグローバル課題

##### 3.1.4 Boundaries and multiple relationships : 境界と複数の関係性

##### 3.1.5 Supervision : スーパービジョン

##### 3.1.6 Distinct features of TA supervision : TAスーパービジョンの特徴

##### 3.1.7 Responsibilities of trainers and candidates : トレーナーとキャンディデートの責任

#### 3.2 Professional practice guidelines approved by ITAA :

ITAA承認の専門家実践のガイドライン

##### 3.2.1 Titles : タイトル

##### 3.2.2 Basic principles of advertising : 宣伝に関する基本原則

##### 3.2.3 Trademark policy and guidelines for use of the TA logo :

登録商標とTAロゴの使用についてのガイドライン

##### 3.2.4 Recommendations on professional etiquette : 専門家としてのエチケットのオススメ

#### 3.3 The ITAA Ethics Committee : ITAA倫理委員会

##### 3.3.1 Membership of the ITAA Ethic Committee : ITAA倫理委員会メンバー

##### 3.3.2 ITAA Code of Ethical Conduct and jurisdiction of Ethics Committee :

ITAA倫理行動規範と倫理委員会の管轄

##### 3.3.3 Role of the ITAA Ethics Committee : ITAA倫理委員会の役割

##### 3.3.4 Jurisdiction over resigned members : 辞任した会員に対する管轄権

#### 3.4 Procedures for advice, mediation, and arbitration : アドバイス、調停と仲裁の手順

##### 3.4.1 Procedure for advice : アドバイスの手順

##### 3.4.2 Procedure for mediation for ITAA members : ITAAメンバーへの調停手順

##### 3.4.3 Procedures for arbitration References : 仲裁参考のための手順

##### 3.4.4 The role of the ITAA Ethics Committee in the arbitration process :

仲裁過程内の ITAA 倫理委員会の役割

### 3 ETHICS AND PROFESSIONAL PRACTICE GUIDELINES

#### 3. 倫理観と専門家実践のガイドライン

私たちは、EATAとITAA倫理行動規範改訂委員会に、彼らの基盤となる作業と、これらの倫理的価値観と原則を利用することへの許可に感謝します。

#### 3.1 Ethical conduct and standards for training and supervision

##### 3.1 トレーニング及び、スーパービジョンの倫理的行動（振る舞い）と基準

###### 3.1.1 Preamble : 前文（序文）

IBOCは、カウンセリング、心理療法、組織、および教育の4つの分野を通じ、TAインストラクターおよびスーパーバイザーの間での最高の倫理的行動を促進する。TAインストラクターとスーパーバイザーは、仕事のあらゆる面で模範的な倫理的行動基準を守り、認定TAトレーナーや実務家からの信頼を得て、私たちの厳しいトレーニングと資格認定プロセスへの公衆の信頼を維持するために最高のサービスを提供します。それ故、これら倫理的トレーニング基準は強い想いの現れです。トレーナーとスーパーバイザーは、これらの職業上の倫理的原則と基準をモデルにした、原則的で善良な道徳的生活を送ることを期待されています。

###### \* 1 スーパーバイザー

この件に関しては、インストラクター及びトレーナーという用語には、*ITAA Certification*のスポンサーや、理論や応用のワークショップもしくは、セミナー、スーパーバイザーやケース・コンサルタントの役割を含みます。議論中の特定の倫理的質問が一つの特別な役割の内容に限られている場合は、そのペダゴジック的（教育的）役割は定義され、リストされている他の役割から区別される。

この章では、トレーニングと協議（コンサルテーション）における倫理の教育的ガイドとして、改訂されたITAA倫理行動規範（2014）の関連部分を強調し、トレーニングとスーパービジョンに関する現代の倫理的問題を詳しく説明しますが、多面的関係性や、境界が重なっている部分や、パラレルや多様性については、依然としてクリティカルな討議が進行中です。同様に、このハンドブックは生きた文書であり、新しい問題やベストな実践策が出現するにつれて定期的に改訂される可能性があります。読者の専門分野およびITAA倫理行動規範（2014）に関連する相互に関連する基本的ガイドラインと合わせて、トレーナーおよびトレーニーは責任ある専門家の判断および模範的な倫理およびトレーニング基準を行使しながら適切な行動方針を選ぶためにこの章を利用します。

###### 3.1.2 Ethical principles : 倫理原則

倫理原則は(ものの本質的または相対的な)真価から導き出され、人々がどのように相関的な決定を下し、互いに対して敬意を払って振る舞うかを導き、個人と社会の幸福、個人の発展、充実、成長を促進することを目的としています。

TAの主たる真価（価値）には次のものが含まれます。それらは、すべての人間の尊厳の尊重、人々はそれぞれの状況の現実、自国の法律、および他者の権利を考慮に入れながら、自己決定権の認識や、自分の経験からの学ぶこと、自分自身を管理する権利の認識、身体的健康と精神的安定の権利や、安心感を可能にする環境下で自由に探索し成長する権利そして、対人関係や相互依存、他者の個性に対する相互関係の影響の認識等です。

ITAAメンバーは、これを網羅的なリスト（制限列挙）と見なすべきではありません。

私たちの第一の実存的な哲学的視点は、私たちの倫理原則が大きく適応された価値と、EATA倫理マニュアルおよび国連人権宣言に収束します。これらの原則と価値は、当組織のティーチング（teaching）およびコンサルティング（consulting）サービス、およびすべての専門分野のクライアントへの直接的サービスに告げます。

これらの指針値から推定できる倫理原則は次のとおりです。

- ・ 責任
- ・ 保護
- ・ 尊重
- ・ 関係性の中でのコミットメントと忠実性
- ・ エンパワーメント（肯定感）

倫理的ジレンマは、しばしば異なるコンテキスト（背景）で重複する原則と価値を示します。

TAの教師とトレーニーは、規範的なルールのリストの代わりに、知識のある経験豊富な同僚との継続的な会話に思慮深くかわり、オプションの認識に気づき高め、トレーニングまたはコンサルタント関係によって影響するグループに関連する倫理的決定の影響を考慮することが期待されます。専門分野の4つの分野：心理療法、カウンセリング、教育、および組織。これらのフォーカルグループ<sup>2</sup>には以下が含まれます。

\*2：フォーカルグループとは、EATA倫理観マニュアルとITAAのCode of Ethical Conductから採用されている。ITAAメンバーは、このリストには網羅されない。

- ・ トレーニー
- ・ 仲間、同僚
- ・ 人間環境/コミュニティ
- ・ トレーナーとしての自分自身

ITAA倫理行動規範（ITAA Code of Ethical Conduct）は、実践者に以下を求める

各価値観とそれから派生する倫理原則を考慮し、どの態度を取るべきか、そしてそれらが属するグループのメンバーとしてどのように振る舞うかを決定するために自分の考えや行動などを深くかえりみます。彼らは与えられた状況を分析し、彼らの実践に対する倫理原則の影響を考慮し、クライアント、自己、環境を含む多種多様な要因を考慮した行動を選択します

(2014、P.3)。

インストラクターの主な責任はトレーニーがクライアントに最高のサービスを提供できるよう支援することであるため、倫理原則を意思決定に適用する場合、少なくとも2つのフォーカルグループが積極的にかかわります。それは、トレーニーのクライアントへの影響とトレーニーのスキルと知識開発への影響が存在するためです。トレーナーとトレーニーは、倫理的ジレンマがトレーニー個人のクライアントだけではなく、突然トレーナーや、同僚そして、クライアントの子ども達や、家族、社会的グループに至るまで多方面のコミュニティーに対して様々な倫理的思考や、クリティカルシンキング（理論的・理性的な考え方）が突然かつ予測不能に拡大する可能性があることを認識します。トレーナーの倫理的意決定に影響を与える可能性のある倫理的ジレンマと潜在的な重複する原則についてクリティカルに考えるためのツール「倫理的評価のグリッド」は、ITAA倫理行動規範（2014、P.6）にあります。このグリッドは、心理療法士、カウンセラー、教育者、または組織実践者で生じる倫理的ジレンマに適用できます。

### 3.1.3 New values and global challenges : 新しい価値観とグローバル課題

倫理に関する進行中の議論に対する広範な社会的抵抗は無いが（普及していないが）、Cornell（2017）は、文化的差異の尊重に基づいて設立された「新しい価値」でグローバルな課題に対処するようTAアナリスト達に会話を始めることを求めました（p.238）。応答力や、多様性への認識、ケアの関係（性）倫理そして、責任の新しい倫理的価値は、これらの課題に対処するためのTAインストラクターと学生(Students)の能力を強化します。

これらの価値観は、特権的およびそれら主流から取り残された限界あるグループの私たちの目立った（顕著な）会員に対して、経済的、文化的、およびジェンダーのステレオタイプとバイアスに対する応答力と責任に必然的に意識を伴うだろう（強いるだろう）。差異の尊重は、TAアプローチ内の豊富な理論的多様性の評価にまで及びます。

尊厳と自律への人権を維持するためのグローバルな課題は、トレーナーとトレーニーが、バーンが大人(A)の自我状態の細密な自我状態を検討したときに説明したものを使用することを必要とします（1961、195ページ）。それは、道徳的な資質、規則、価値、原則として定義した「世界的な精神（world-wide ethos）」を含み、論理的推論で関与する倫理的意決定であり、アリストテレスが「ロゴス（logos）」と呼んだクリティカルシンキングでありまた、バーンが名付けた「客観的データ処理」でもあります。彼は、パトス（pathos）（アリストテレス倫理学で、欲情・怒り・恐怖・喜び・憎しみ・哀しみなどの快樂や苦痛を伴う一時的な感情）にとっての統合された（A）の人道的能力、つまり「他の人類に対する責任感」を強調しました。これらの統合された（A）の構造は、倫理的な決定に直面すると、対人関係およびグローバルな状況で明らかにする。キャロル・ギリガンの研究の中で、進歩した道徳的推論の多次元の拡張リレーショナルモデルは、確立された倫理的意決定の観点に基づいているとされた。ギリガンは、セルフケアと責任と、他者と地域社会のケアに対する倫理とがバランスが取れると個人が道徳的推論の成熟した大人の段階に達すると発見した（1996）。トレーニングの関係の中で、ギリガンのモデルは、

平等、責任、およびケアのコンテキストとレベルを熟考する倫理的ソリューションに適用されます。このモデルを用いると、倫理的な議論により、他の人（トレーニーのクライアント、実践者としてのトレーニー、およびコミュニティ）と自己（トレーナー）のケアの不均衡を明らかにできます。このモデルは、ITAA倫理行動規範（2014）の対人（関係での）強調と一致しています。トレーナーおよびコンサルタントとして、これらの複数の側面のバランスをとり、トレーニー達、そのクライアント、同僚、およびコミュニティに影響を与えるソリューションを模索することが求められています。教師として、トレーニーの学んだ経験を導きそして、誠実さとケアのバランス、公平性の促進、ニーズの違いの認識を促進する意思決定の振り返りを促進することが私たちの倫理的責任になります。

### 3.1.4 Boundaries and multiple relationships : 境界と複数の関係性

トレーニング内の複数の関係性は、最近のTAの文献ではほとんど注目されていませんが、心理療法における複数の関係と交差した境界は、専門心理学ジャーナルでは周期的に上がっているトピックスである。セラピストまたはトレーナーが、トレーニーまたはクライアントと複数の関係に順次または同時に関与するときに、複数の関係（Multiple relationships）が発生する。トレーニング中に境界と複数の関係に最初に対処する中でCornell（1994）とMcGrath（1994）は、1人がセラピストとスーパーバイザーの両方の役割を果たすところをITAA当時の一般的な状況を観察しました。これらの二人の理論家は、固有の役割の非互換性や、倫理的矛盾、あいまいさと同時に、これら重なり合う役割に存在する利点についても関わり、責任ある思考に積極的に関わった。

改訂されたITAA倫理行動規範（2014）は、性的および非性的境界違反を明確に扱い、知識と専門的なガイダンスとの含意を通じた考えによる複数の関係の圧力からの専門家契約を（問題発生から）保護することをメンバーに警告しています。

1.6.5 契約（を結ぶ）サービスを提供しているITAAメンバーは、経済的および性的事項を含むそしてこれらに限定されないあらゆる方法でクライアントを悪用してはならない。

ITAAメンバーとそのクライアント、トレーニー、またはスーパーバイザー間の性的関係は、禁止です。（P.8）

1.6.6 ITAAメンバーは、メンバーとそのクライアント間の活動や関係がある専門的コントラクトを脅かす（危険あるいは、台無しにする）専門的契約を締結または維持しない。

ITAAメンバーは、二重の役割を最小限に抑え、潜在的な二重の役割に遭遇した場合は、信頼されている同僚や尊敬されているスーパーバイザーからのコンサルテーションを受ける。（P.8）

デュアルリレーションシップ（二重関係）については、リチャード・アースキン（Richard Erskine）が、早期のTAトレーニングのモデルとして、セラピストの個人的な進展

（development）だけでなく、それらセラピーは内省（introspection）と個人の成長のための機会提供とし基本的なトレーニング要素として一定のセラピーが提供されていることについて、2005

年のカンファレンスのラウンドテーブルで討議された。一方、同じラウンドテーブル会議で、カルロ・モイソはセラピストの無意識の要素(material)はスーパービジョン契約の中で扱われ、臨床関係と治療契約に焦点を合わせるとした。McGrath (1994) は、初期のデュアルモデルはおそらく有用だが、重大な問題や虐待無しの場合である。(p.10)

TAトレーナーの間では、専門能力開発へのアプローチは進化し続けていますが、包括的倫理は、クライアント/トレーニー達への搾取の防止であり、個々の自律性の維持であり、これらは、セラピストの無意識の要素の輪郭を描くことによってそれらの役割を分離するのに有効で、TAトレーナー達は、スーパービジョンの関係から外れ、サイコセラピストとして対処する。1980年代以来、倫理研究者は心理療法における重複する複数の役割の中でのプレッシャーと競合する要求について実務家に警告している。ボリーズとポープ (Borys and Pope) (qtd. in Pope and Keith-Spiegel, 2008)は、性的関係と非性的関係の二重の役割行動を明らかにし、キッチナー (Kitchener) は、「役割が増えることと、それによる危害の可能性も同様であることの不一致」を明らかにした。(qtd. in McGrath, 1994, pp.8,10)。このリサーチによって、トレーニング中の関係に追加する役割や、重複する複数の役割をこなすことについて、4つの専門分野にわたる決定をトレーナー達に提供することができた。

その他としてとりわけ、マクグラス (McGrath,1994)、コーネル (Cornell,1994)、ポープ&キース・スピーゲル(Pope&Keith-Spiegel,2008) は、非性的な二重の関係は避けられないままであり、倫理的な意思決定における厳格な保守主義に対して警告を発した。コーネル (Cornell,2017) は、組織および学問の環境下つまり、スーパーバイザー、学生/先生、スーパーバイジーそして、同僚という中では、複数の重複する専門的關係の必然性を観察した。彼の個人的な例は、不動で気づかない影響や、治療の関係の中での深さと意味を制限する非性的境界であったり、もしくはトレーナーの理想化やクライアントの非人格化を通しての潜在的に気づかない害などについて慎重に考える質問を促すための彼の二人のトレーナー達との複数の役割の経験に由来する潜在的な利点、深さ、豊かさを思い出させるものであった。

非性的境界の交差(またぐこと)は、有益、中立もしくは、有害的にも記述的に編集され、個人のコンテキスト (背景) に関連した中で考慮されるべきである。ギーセイル&ガバード (Guitheil & Gabbard, 1993, qtd. in)、ポープ&キース・スピーゲル (Pope&Keith-Spiegel, 2008, P. 3)。境界交差の影響はコンテキストによって異なる場合があります。例えば、理論的適応 (theoretical orientatios)、コミュニティの規模そして、文化的多様性。このような交差が、中立的、有益、または有害な境界違反として認識されるのかどうかは、慎重なコンテキスト化 (社会的、歴史的脈における解釈) に依存します。

ヒューマニスティック(人道主義)なセラピストは、他の理論的適応のセラピストよりも多くの境界を交差することがわかっています。(ボリーズとポープ(Borys & Pope, 1989, qtd. in ポープ&キース・スピーゲル Pope & Keith-Spiegel)。小規模な遠隔地域で働く実践家やトレーナー達は、逃れられない、避けられない二重の關係に直面し、そして突如彼らの専門的 (職業上の) 契約の關係で境界交差の影響についての疑問に直面する。ヒューマニスティックであり社会心理学を実践

している、広く、文化的に多様であるが、比較的小規模なコミュニティのセラピスト達、カウンセラー達、教育者達そして組織の実践家達にTAコミュニティは、境界の交差と複数の役割から生じる倫理的ジレンマの分析のための豊富な機会を提供します。

ヒューマニスティックなTAのトレーナー、セラピスト、教育者、カウンセラー、および組織的実践者として、私たちは他のいくつかの形式のセラピーよりも境界を(交差)越える伝統があることを認識しており、その結果、私たちのトレーニングに影響を与えています。

契約の最初に、認識または精神力学的アプローチとの違いをトレーニーとクライアントに知らせることをお勧めします。文化の違いを考慮するという事は、トレーニーの文化的信念を認識するだけでなく、私たちの文化的信念がどのように違い、倫理的決定に影響を与えるかに留意することを意味します。試験官として、私たちは受験者の文化的信念を尊重するように訓練されています。自分の文化的信念がキャンディデートの評価にどのように影響するかを考えると、私たちは最も効果的となります。トレーナーが自分の文化的信念で中立であると見なす境界の交差は、異なる文化的信念を持つトレーニーによって有害であるか、あるいは役立つと見なされる場合があります。

粘り強く包括的な質問を超えて、賢明なトレーナーは私たちの人間の誤りやすさを認識し続け、倫理的ジレンマの認知エラーに免疫がないことを認識しています。ポープ&キース・スピーゲル(Pope&Keith-Spiegel (2008) は、「人々は、自分がしていることや既にしていることは、間接的に他者の福祉に影響を与える可能性がある」と認識する能力が異なる」(P.3)と強調した。彼らは、専門家の要求、疲労、および合理化する人間の傾向が、トレーニーのクライアント、クライアントの家族や友人、同僚、およびトレーナーの未来のトレーニーに対する私たちの決定の潜在的で広範囲にわたる影響の認識を妨げる可能性があることを思い出させました。このような認知エラーのシグナルは、特定の二重関係や境界交差を同僚やスーパーバイザーに明示することを嫌がったり、もしくは私たちの信念や決定についての確信として感じたりするかもしれません。状況に関する心地よくない気持ちを慎重に吟味し、境界交差が専門性コントラクトと一致しているかどうかについて思慮深く質問することは、倫理的な選択に集中するのに役立ちます。最後に、検討中の決定が裁判所や、ITAA倫理委員会もしくは、ニュースメディアなどの他者によってどう受け取られるかという討議は、その決定を有用、中立、または有害な境界違反として分類したり、そして適切な行動指針を選択したりするのに役立ちます。公平な(偏見のない)同僚またはスーパーバイザーとの協議は貴重であり、これらの時期にはおそらく重要です。

複数の関係と境界の交差は、TAの理論的および哲学のコンテキストの中でまた、上記の倫理原則、および情報に基づいた永続的な包括的な質問を通じての個々の状況等のコンテキストで評価されるべきです。有害で不注意な境界違反がトレーナーとトレーニーによって認識されたときは、潜在的な修復を策定し、出来事を文書化する際に協議が重要になります。

### 3.1.5 Supervision : スーパービジョン

トランザクショナルアナリストは、心理学の分野では、特別なスーパービジョン・トレーニングと評価を何よりも必要としていました。スーパービジョンは、ツールとして、スキルとして、資格要件として、進行中のトレーニング関係、および倫理的決定を整理するための場として様々に説明されてきた。このコンピテンシーベースのスーパービジョン・アプローチは、自律、個人的責任、および契約上の合意というTAの哲学および理論の原則に基づいています。

以下のスーパービジョン指針はいくつかの仮定に基づいており、TA理論の文献および現在の研究等によって提供されている。

- ・スーパービジョン契約の一般的な目的は、プロのコーチ、カウンセラー、心理療法士、教師、または組織のコンサルタントとして、効果的なサービスをクライアントに提供するためにスーパーバイザーの能力を高め、スーパーバイザーの視点を広げることです。

- ・スーパービジョンは、スーパーバイザーとの効果的な感情的接触を重視し、カウンター・トランスフェランス（逆転移）およびパラレル・プロセスなどに注意深く耳を傾け対応する慎重な評価をするプロセスである（Mazzetti, 2007）。

- ・スーパービジョンはクライアントのケアと幸福を優先します。スーパーバイザーとクライアントの両方に適切な保護を取り入れるよう努める（Mazzetti, 2007）。

- ・TAスーパーバイザーは契約を締結、全うし、主課題（Key Issue）を特定し、スーパーバイザーの職業的成長を促進する（Clarkson, 1992; Mazzetti, 2007）。

- ・スーパービジョンでの契約は、実務家の専門的な発達上のニーズと、実務家の専門的な自己同一性の発達を支援する関係上のバランスを対象としている（Erskine, 1982）。

- ・スーパーバイザーは、文化の多様性に敏感であり、パラレル・プロセスで現れる可能性があるバイアスの影響に注意し、スーパービジョン・トライアド（traid: 三角関係）内で任意の方向に伝達されることに留意することが期待されています（Zetzer, 2015）。

- ・スーパービジョンの範囲内で発生するパラレル・プロセスへの気づきは、スーパービジョン・トライアドのメンバーに利益をもたらす可能性があります。一方、パラレル・プロセスへの行動化、無意識に行動に表すことを無視することは、セラピー的にも、スーパービジョンの関係にとって不利になる可能性があります。

### 3.1.6 Distinct features of TA supervision : TAスーパービジョンの特徴的な機能

TAの文献にはさまざまなスーパービジョンの説明が記載されていますが、特定の定義ではない。心理学のコミュニティは、オックスフォード英語辞典の定義を引用しています。それは、スーパービジョンの責任と、他の人の仕事を指示したり修正したりする権限とあります。い



くつかの国では、スーパービジョンの役割は評価者としての特定の法的責任があったり、スーパーバイザーそれぞれの取り扱い件数の（動きの）詳細なモニターであったり、スーパーバイザーの行動に責任を持つ責任者であったりする。

TAのスーパービジョンは、この厳格な法的定義とは明らかに異なる役割です。ITAAのトランザクションアナリストの多様な且つ、グローバルな文化、認定されたスーパーバイザーの比較的小さなコミュニティそして、自律性の原則の上に存在する哲学的強調、個人の責任は、TAスーパービジョンを他の厳重なゲートキーピング（gatekeeping: 利用の権限を制限する）また、必要条件を監視するようなスーパービジョンとは明らかに区別する。それらは、スーパーバイザーがトレーニングやスーパービジョンの時間を提供するために遠く離れた場所からやって来るかもしれないときには役立たない。

Mazzetti (2007) は、彼のスーパーバイザーの機能のリストでこの違いを捉えています。それは、対等な関係の進展、スーパーバイザーの複数の役割について議論するための協力的な構造や、アセスメントやフィードバックにおける透明性の優先順位と役割、平等主義的な関係を促進するための評価についてです。

### 3.1.7 Responsibilities of trainers and candidates : トレーナーとキャンディデートの責任

TAトレーナー、スーパーバイザー、スーパーバイザーは、修正されたITAA倫理行動規範に記載されているすべての責任、および以下の事項、特にトレーニング契約に適用される責任すべてを引き受ける必要があります

IBOCは彼らが注目する必要があると思うすべてのエリアを詳しく説明します。

・スーパーバイザーは、試験基準を満たし、また必要なITAAドキュメントを完成させる正確性に対する責任を共有する。

・筆記試験、カンファレンスでのプレゼンテーション、公開された記事すべてがトレーニーの進行中の言説と結びつくことを意味します。議論に参加することは、私たちのグローバルな談話コミュニティの書き手（ライター）と話し手（スピーカー）に敬意を払い、正確な引用で実証する。トレーニーとトレーナーは、盗作を構成するものの認識、TAJ形式での正確な情報源引用による盗作を回避するトレーニーの義務など、筆記試験の正確性に対する責任を共有します。カンファレンスでのプレゼンテーション、ビデオ、およびその他の非テキスト形式からのアイデアは、知識を想像し伝達するTAの豊かな口頭伝授を認めるために

筆記試験、口頭試験、およびその他の出版物でも正確に引用してください。

・トレーナー、スーパーバイザーおよび実務者は、専門職に関する国内および法的要件を満たす責任があり同時に、地域および国内の法律を順守することが求められます。

・スーパーバイザーは、適切な場面で、スーパーバイザーに肯定的なフィードバックとストローク

を与える責任があります。スーパーバイザーは、適切な場合に事実に基づく成人（A）の負の条件付きストロークを提供する責任がある。したがって、スーパーバイザーの専門的成長を支援するコンフロンテーションをスーパーバイザーが受け入れる能力を認めたり、スーパーバイザーが保護に注意を払ったりすることもスーパーバイザーの責任であると力説している。（Mazzetti、2005、p.101）

・スーパーバイザーが最少要件または能力基準を満たしていない場合、彼女/彼のトレーナー/スーパーバイザーは、スーパーバイザーがトレーナーの承認を得るための明確な基準を設定する責任がある。

4つの分野にまたがる厳格なTAの資格取得プロセスの認識が高まれば、TAトレーニングははっきりと区別されています。評価監督責任(evaluative supervisory responsibilities)はIBOC試験委員会で公的に機能し、倫理違反に対するゲートキーピング機能は、倫理的苦情プロセスを通じて地域のTA専門組織あるいは、ITAA倫理委員会によって正式に実行されます。TAスーパーバイザーは、トレーニングおよびスーパービジョンに関する地域法または国内法を遵守する必要があります。また、トレーニングとスーパービジョンの関係におけるパラメーター（規定要因、特性、条件；限界）や権利、義務についてスーパーバイザーに明確に通知することが期待されます。一部の国では、用語「コンサルタント」または「スポンサー」が、TAスーパービジョンの説明や範囲内の活動を示す推奨される用語です。

## 3.2 Professional practice guidelines approved by ITAA :

ITAA承認の専門家実践のガイドライン

### 3.2.1 Titles : タイトル

#### A. CTA資格取得者名称は以下のタイトルを持つ

Certified Transactional Analyst 公認トランザクショナルアナリスト

- (Counselling) カウンセリング
- (Education) 教育
- (Organizations) 組織
- (Psychotherapy) 臨床

B. TA（コミュニティ）で、インストラクト（指導）と／あるいは、スーパーバイズの資格を有するCTAもしくは、それらの資格取得のためのトレーニング中の人達は、それぞれ下記のタイトルを持つ。

- Teaching and/or Supervising Transactional Analyst : TSTA, TTA, STA
- Provisional Teaching and/or Transactional Analyst : PTSTA, PTTA, PSTA

以下は、**原本P.9～13（訳未完）** 翻訳が進み次第、更新いたします。

**3.2.2 Basic principles of advertising** : 宣伝に関する基本原則

**3.2.3 Trademark policy and guidelines for use of the TA logo** :

登録商標とTAロゴの使用についてのガイドライン

**3.2.4 Recommendations on professional etiquette** : 専門家としてのエチケットのオススメ

**3.3 The ITAA Ethics Committee** : ITAA倫理委員会

**3.3.1 Membership of the ITAA Ethic Committee** : ITAA倫理委員会メンバー

**3.3.2 ITAA Code of Ethical Conduct and jurisdiction of Ethics Committee** :

ITAA倫理行動規範と倫理委員会の管轄

**3.3.3 Role of the ITAA Ethics Committee** : ITAA倫理委員会の役割

**3.3.4 Jurisdiction over resigned members** : 辞任した会員に対する管轄権

**3.4 Procedures for advice, mediation, and arbitration** : アドバイス、調停と仲裁の手順

**3.4.1 Procedure for advice** : アドバイスの手順

**3.4.2 Procedure for mediation for ITAA members** : ITAAメンバーへの調停手順

**3.4.3 Procedures for arbitration References** : 仲裁参考のための手順

**3.4.4 The role of the ITAA Ethics Committee in the arbitration process** :

仲裁過程内の ITAA 倫理委員会の役割